# ベストパートナー

佐藤隆彦

コロナ禍以前には毎年何度か結婚披露宴に招待される機会があった。そうした披露宴で祝辞を頼まれた場合、決まってスピーチに盛り込む締めのフレーズがある。「お互いの差異を認め合い、強みを伸ばし弱みを補い合い、鉄筋コンクリートのように堅牢で明るい家庭を築いて下さい」である。

勿論、この締めに至る前には解説部分が欠かせない。「コンクリートは圧縮に強いが引っ張りに弱く、鉄筋は引っ張りに強いが圧縮に弱い。両者の異なる特性、強みと弱みを補完することで鉄筋コンクリートという構造ができている。鉄筋コンクリートはその堅牢性から100年以上も寿命を保つと言われ、世界中で最も普及している建築工法です」といった内容である。

このスピーチの元ネタは平成初期に、職場の上司が私達夫婦に贈ってくれた祝辞である。あの頃はRC工法が建築工事で広く用いられており、大手ゼネコン内の職場結婚として催された披露宴では多くの参列者の心に伝わるセンスの良い祝辞であったと思う。

令和の時代になり、鉄骨造の増加や木造建築の活用強化も影響しているのか、生コン出荷量が過去最低を更新し続けている。かつては幾分省略できたスピーチの解説部分が、今は欠かせないのも止むを得ない時代の変化か。「コンクリート圧送業」を生業とする私は、変わりゆく世の中にあっても、これからも自信を持ってベストパートナーの新郎新婦に向けてこの祝辞を贈り続けたいと思う。

（全圧連会長）